

安村氏に日本医師会医学賞

福医大教授 災害医学研究 評価

福島医大放射線医学県民健康管理センター長の安村誠司教授(68)が日本医師会医学賞(社会医学分野)を受賞した。東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で被災した住民の健康管理を支える災害医学研究の業績が評価された。本県関係者が医学賞を受けるのは1977(昭和52)年以来49年ぶり、社会医学分野では初めて。福島医大が24日、発表した。

避難に伴う心身影響など解明



安村誠司教授

安村教授は多くの研究者との共同研究を通じ、避難に伴う生活環境の変化が生体習慣病リスクや心の健康に及ぼす影響などを明らかに

してきた。低線量被ばくの甲状腺がんへの直接的影響が認められないことや、県内の早産率や低出生体重児の割合が原発事故の影響によるものではない事実も裏付けた。これらの成果を生かし、災害後の長期にわたる健康管理の重要性を示してきた。執筆した関連論文は380本を超え

め、県民健康調査の計画づくりの中心的な役割を担った。調査は原発事故による健康への影響について科学的根拠を基に解明するのが目的で、県が福島医大に委託している。原発事故発生後4カ月間の行動記録から外部被ばく量を推計する「基本調査」などが2011年度に始まり、県民の不安解消につなげてきた。

安村教授は「被災地域住民の健康管理を支えるため、多くの仲間と積み重ねてきた共同研究の成果が評価された」と受け止めている。震災と原発事故から15年の節目での受賞に意義を

感じる。今後も研究で得られた知見を災害後の健康管理や支援の充実に役立てていきたい」としている。

安村教授は東京都出身。山形大学大学院医学研究科修了。2000年に福島医大医学部公衆衛生学講座主任

教授に就任し、2023(令和5)年から放射線医学県民健康管理センター長を務めている。

日本医師会医学賞は医学上、重要な業績を上げた会員に毎年授与される。約17万8千人の会員のうち、基

礎医学、社会医学、臨床医学(内科系、外科系)の各部門を通じ、計4人に贈られる。本県関係では197

7年に福島医大医学部眼科学講座の梶浦睦雄教授が当時、臨床医学部門で受賞した。